

あいち農産物生産流通レポート

2022年6月号

| | ページ |
|--|----------------|
| ◎ 情報サロン | |
| ・ 夏秋作ミニトマトのヤシがら培地耕栽培における 適正給液量を明らかにしました | (農業総合試験場) 1 |
| ◎ 地域トピックス | |
| ・ JAあいち海部が南部カントリーエレベーター(CE)を再編整備 | (海部農林水産事務所) 3 |
| ・ おかざきかき氷街道 | (西三河農林水産事務所) 4 |
| ◎ 東日本情報 | |
| ・ ブロccoli産地の変遷と大規模経営事例 | (東京事務所) 5 |
| ◎ フラワーページ | |
| ・ 横浜市で横浜ローズウィークが開催されています | (東京事務所) 7 |
| ◎ 青果 | |
| ・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) | 9 |
| ・ 名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し | 10 |
| ◎ 花き | |
| ・ 切花・鉢花の6月の見通し(県内市場) | 22 |

※今月「西日本情報」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

夏秋作ミニトマトのヤシがら培地耕栽培における適正給液量を明らかにしました

農業総合試験場

1 背景と目的

中山間地域における夏秋作トマト・ミニトマト産地では、新規就農者を中心に、土壌病害対策や収量向上を目的としてヤシがら培地耕栽培が増加しています。しかし、本県産トマトの主力である平坦部の冬春作に比べて夏秋作の面積は少なく、ヤシがら培地耕栽培における夏秋作ミニトマト用の給液管理方法は確立していませんでした。そのため、既存の冬春作トマト用の給液管理マニュアルを参考に栽培してきたことから、的確な給液管理が難しく、排水量が多く肥料コストが高い、高温期に茎葉が萎れるなどの問題が発生していました。

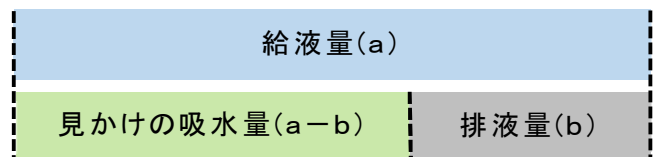


夏秋作ミニトマトのヤシがら培地耕栽培

そこで、夏秋作ミニトマトに適した給液量を明らかにするための研究に取り組みました。

2 月別の最大吸水量と適切な排水率

ヤシがら培地耕における給液量は、ミニトマトが必要とする見かけの吸水量の最大量（以下「最大吸水量」）を確保し、培地から排出する排水量を抑えることが重要です。葉数が安定した7月から10月の期間、晴天日の排水率を30%と50%を目標に管理する2試験区を設け、見かけの吸水量、排水率、生育、収量を調査しました。



$$\text{排水率(\%)} = \text{排水量(b)} / \text{給液量(a)} \times 100$$

図1 見かけの吸水量と排水量の関係

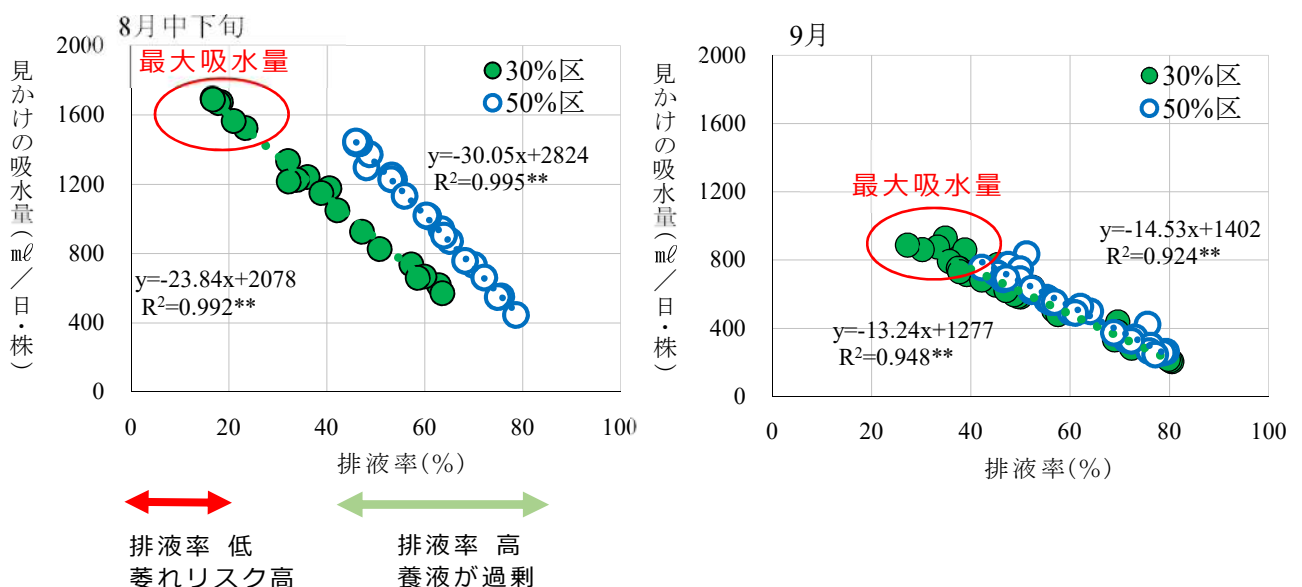


図2 排水率と見かけの吸水量（月別、抜粋）

見かけの吸水量と排液率には負の相関がありますが、両区とも、晴天日に見かけの吸水量は多く排液率は低く、曇雨天日は反対の結果となりました。30%区と50%区の見かけの給水量は8月を除いてほぼ同等で、月別に最大吸水量が明らかとなりました(図2)。

8月に最大吸水量となった日は、1回の給液における排液率が10%に下がると温室内の一部で萎れが発生しました(図3)。この日の排液率は約20%でした。

一方、排液率が50%となるよう給液量を増やしても、生育、収量は同等でした(図4)。

これらのことから、最大吸水量を確保しながら排液率を抑えるためには、給液量は、排液率を30%以上40%以下で管理するのが良いと思われました。

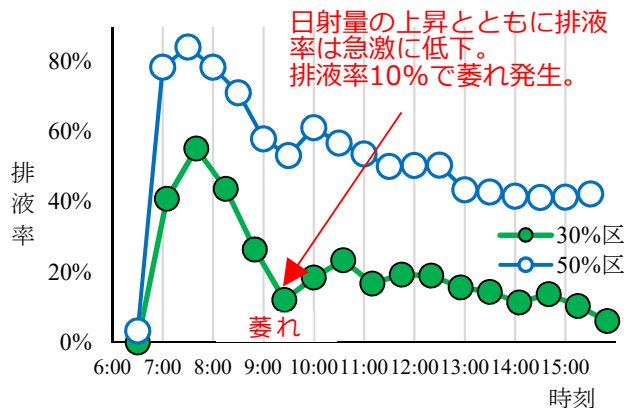


図3 8月の最大吸水量日における排液率の変化

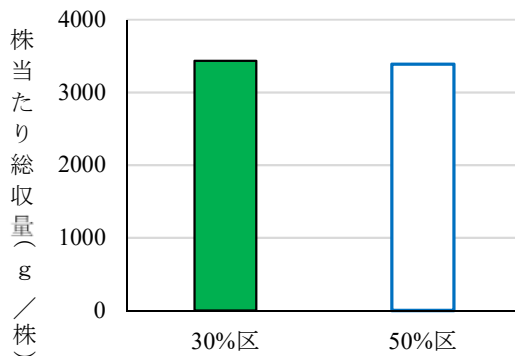


図4 給液量の違いが収量に及ぼす影響

3 タイマー制御による晴天日の適正給液量

7~9月の排液率を35%、10月の排液率を30%と仮定し、晴天日の適正給液量を算出しました(表1)。この適正給液量を1回当たりの給液設定値で割った回数で、タイマー制御により給液するようにします。

なお、曇雨天日は、見かけの吸水量が概ね50%以下に減少するため、給液量も50%程度に減らします。

表1 晴天日の適正給液量と排液率

| 時期 | ミニトマトの吸水量 | | 適正給液量* | 排液率(%) |
|-----|-----------|----------|--------|--------|
| | 最大値(実測値) | 最大吸水量(a) | | |
| 7月 | 1220.6 | 1056.2 | 1600 | 35 |
| 8月 | 1695.6 | 1636.3 | 2500 | 35 |
| 9月 | 927.9 | 867.0 | 1300 | 35 |
| 10月 | 737.5 | 658.7 | 900 | 30 |

吸水量、適正給液量の単位：ml/日・株

a：最大値以下6点の平均

*：a×1.54(10月のみ×1.43)、十の位を四捨五入
係数1.54=100/(100-35)、係数1.43=100/(100-30)

4 まとめ

夏秋作ミニトマトのヤシがら培地耕における適正な給液管理により、肥料の無駄をなくしたコストの低減、高温期の生産安定を通じて、新規就農者をはじめとする生産者の経営安定につながると期待します。

(JAあいち経済連、トヨタネ株式会社との共同研究(H30~R2)の成果です。)

J A あいち海部が南部カントリーエレベーター（C E）を再編整備

海部農林水産事務所

J A あいち海部は、弥富市で再編整備を進めていた南部C Eが完成し、2022年5月9日、現地で竣工式を開催しました。整備された南部C Eは、2022年産の小麦の取扱いから稼働しています。

1 共乾施設再編の経緯

海部南部地域は、木曾川のデルタ地帯に属し、平坦で肥沃な土地のため、県内有数の水田地帯となっています。J A あいち海部の南部地区には、3つの共乾施設（鍋田C E、飛島ライスセンター、十四山ライスセンター）がありましたが、老朽化が進み、今後、改修等により多額の費用が必要となることが見込まれていました。このため、3つの共乾施設を1つの施設に集約し、施設の運営コストを低減することが計画されました。

今回、強い農業・担い手づくり総合支援交付金を活用し、鍋田C Eの乾燥施設、集排じん設備、荷受施設、選別設備、糶摺設備等を増強し、南部C Eとして再編しました。

2 竣工式

式典には、関係者ら62人が参加し、地元県議や愛知県農業水産局の犬飼技監始め県関係者も臨席しました。式典では、J Aの平野組合長があいさつで、施設再編計画の最重要事項の1つであった南部C Eの再編整備を無事完了できたことへのお礼と今後の抱負を話し、長坂衆議院議員と安藤弥富市長が祝辞を述べ、最後にテープカットが行われました。



施設の外観



竣工式のテープカット

おかざきかき氷街道

西三河農林水産事務所

1 おかざきかき氷街道の紹介

人・水・緑が輝くまちづくりを進めている岡崎市。

その東部の山あい広がる額田地区は、平成の名水百選に選ばれた湧水群もある水と緑のふるさとです。

「おかざきかき氷街道」は、平成30年度に「食と花の街道」として認定されました。

額田地区で採水される天然水と、地元でとれた果実やお茶や野菜など「ぬかた」の恵みをふんだんに使ったシロップやトッピングで、9軒の飲食店が「まるっとぬかた」のかき氷を提供します（かき氷の提供時期は店舗により異なりますので、御確認ください）。

今後も、地元の農産物を使用したシロップやトッピングを開発するとともに、参加店舗を増やしていきますので、是非、お越しく下さい！



おかざきかき氷街道チラシ

2 おすすめ時期

かき氷が食べたくなる春～秋にかけてがオススメ！

期間限定でスタンプラリー（2022年4月30日～9月30日）などのイベントも開催しています！

額田地区には、かき氷以外にも岡崎市ホテル学校、自然のなかで遊べる「わんPark」、くらがり溪谷の紅葉など、楽しみ・見どころ満載です。

おかざきかき氷街道へお出かけの際は併せてお立ち寄りください。

『スタンプカード』をもらってチャレンジしよう!

スタンプを10個貯めたら1,000円分無料!!

楽しみ方はとっても簡単。かき氷街道のお好きなお店をまわり、かき氷1杯につきスタンプ1個押印いたします。スタンプが10個貯まりましたら、次回かき氷券（1,000円分）として使用できます。お気に入りのお店でお使いください。

開催期間 2022年4月30日(土)～9月30日(金)

※チャレンジしていただける方は、お会計時にカードを買ってください。

おかざきかき氷街道 公式HP

Instagram

D.H.K2018

(お問い合わせ)

■ おかざきかき氷街道事務局 (岡崎市ぬかた商工会内) TEL.0564-82-3077

■ おかざきかき氷街道加盟各店

スタンプカード

ブロッコリー産地の変遷と大規模経営事例

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

愛知県の主要な露地野菜のひとつであるブロッコリーは、東京都中央卸売市場への入荷量が年々増加している数少ない野菜です。全国各地で栽培に取り組み、出荷箱に氷を詰めた「氷詰め」の普及などにより、年を経て主要産地が変わっているのが大きな特徴です。また近年は、規模拡大して大規模に栽培を行う例が増えているようです。

今回は、産地の変遷とともに、2021年度に取り組みられた大規模ブロッコリー栽培へのスマート農業導入の実証事例を紹介します。

1 入荷量の推移と産地の変遷

東京都中央卸売市場への入荷量は、2002年は2万トンでしたが、年々増加して2021年には3.6万トンに達しました。

入荷量の推移と主要産地は図1のとおりで、2002年から2004年は米国が最も多く、愛知は、埼玉に次ぐ第3位の産地でしたが、2010年から2012年には輸入が減り国産の割合が増える中で愛知は第1位を競う産地となりました。さらに2018年から2020年になると、国産の入荷量が大きく増えました。北海道、香川、熊本が入荷量を増やす一方、愛知と埼玉は減らし、愛知の占める割合は低下してきています。

このように主要産地は移り変わっており、愛知と入荷時期の重なる香川や熊本等、競合産地が拡大しています。

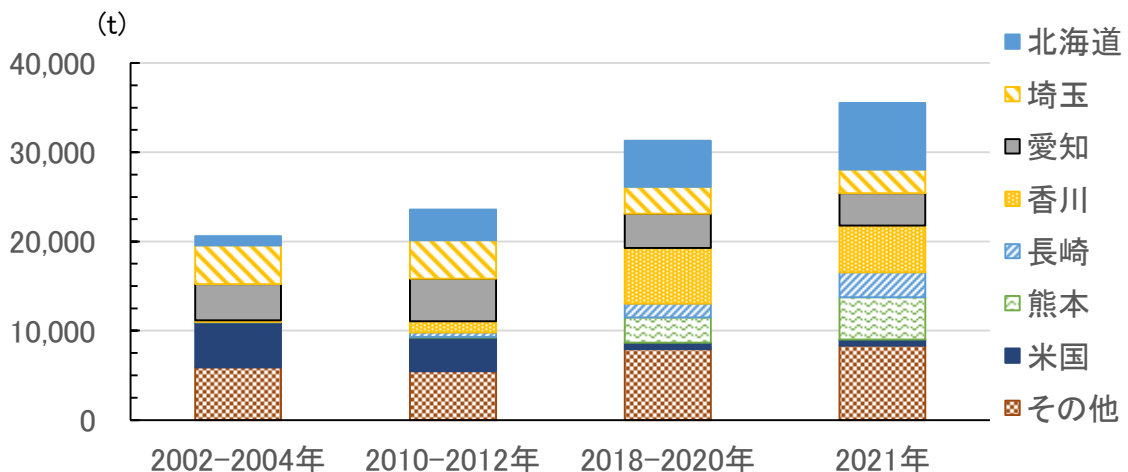


図1 東京都中央卸売市場へのブロッコリーの入荷量の推移と主要産地

※ 2002-2004年、2010-2012年、2018-2020年は、各3カ年の平均

2 大規模ブロッコリー栽培へのスマート農業導入の実証事例

今回紹介する有限会社安井ファームは石川県白山市にあります。石川県は、気象条件、土壌条件からブロッコリー栽培に適さず、主要産地ではありませんが、同社は県の作付面積の約3割を占めるほどの大規模ブロッコリー栽培を行っています。

(1) 有限会社安井ファームの概要

同社は、以前は水稻・大麦・大豆の2年3作体系による稲作単一経営を行っていま

したが、2003年に収益力の向上を目指し、ブロッコリーの輪作を取り入れた水田複合経営へと舵を切りました。

作付面積20aから始めたブロッコリー栽培は、年々拡大の一途を辿って2020年には73haとなり、2020年の同ファームの経営面積136haの半分以上を占めるまでになっています(図2)。

(2) 大規模栽培に向けた導入技術・施設

大区画の水田転作におけるブロッコリー栽培を実現するため、①うね立て同時施肥機、②乗用型の半自動定植機、③高床クローラ式の収穫運搬車を利用しています。

また、施設整備として、2016年に冷蔵庫棟を新設し、2017年に集出荷施設の運用を開始しています。収穫コンテナを自社トラックにより選果施設へ運搬し、冷蔵施設に一時保存後、選果して発泡スチロールの出荷箱に氷を詰め、保冷施設にて出荷まで一時保存した後、年間500t以上を県内外に出荷しています。

(3) スマート農業技術の実証

さらなる高収益化を目指し、ロボットトラクタなどスマート農機の利用や、ドローンを利用した収穫適期判断といったスマート農業技術の実証に取り組んでいます。

ア スマート農機

耕起作業へのロボットトラクタ、うね立て作業へのオートトラクタの試験導入により、作業時間は従来に比べ半分以下に削減されました。また、オートトラクタのウェイトを追加することで、水分の多いほ場でも問題なく直進作業ができるメリットがありました。なお、これらトラクタは機械が大きいため、通行できるほ場や効率化が見込めるほ場が限られ、ほ場の大区画化や農道の整備等が課題となっています。

イ ドローン

収穫時期の判断は、従来は、ほ場外縁の目視できる範囲の状況によっていました。そのため、ほ場の中央部と外縁部の生育差が大きいと、収穫量が少なく労力が無駄になる「作業ロス」や、収穫遅れによる「収穫ロス」が多く発生していました。そこで、ドローンを利用して空撮した画像をAIで分析することで、収穫するほ場の優先順位をつけることが可能となりました。その結果、「作業ロス」、「収穫ロス」が減少し、収量が増加しました。一方で、撮影の外部委託や簡便な撮影方法の検討が課題となっています。

ウ 収穫機

従来は、全量青果用として手収穫を行うため最盛期には収穫ロスが発生していましたが、青果用にあらかた手収穫した後に加工用として全自動収穫機で収穫することにより、作業時間の削減と収穫量の増加を図ることができました。なお、加工用の出荷先の確保が課題となっています。

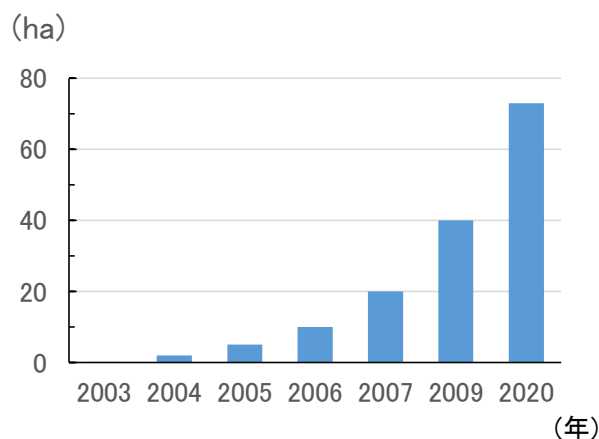


図2 有限会社安井ファームのブロッコリー作付面積の推移

全国各地でスマート農業の実証が進められており、スマート農業の導入や普及によって産地構造が変わっていく可能性があります。

横浜市で横浜ローズウィークが開催されています

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2022年5月3日（火・祝）～6月12日（日）に「横浜ローズウィーク」（主催：ガーデンネックレス横浜実行委員会）として、神奈川県横浜市の横浜市役所や公園、横浜駅前など市内各所でバラのイベントが開催されていますので、概要を紹介します。

1 横浜ローズウィークとは

横浜市は、花と緑にあふれる都市「ガーデンシティ横浜」を推進する一環として「横浜ガーデンネックレス2022」を展開しています。

横浜の街を舞台に花と緑をネックレスのようにつなぎ、季節の移り変わりにより、桜から始まり、チューリップ、バラ、ユリとリレーするように花々を楽しむものです。

横浜市の花である“バラ”を主役にしたイベント「横浜ローズウィーク」は、市内各所のバラ園や公園、横浜市役所などが会場となっています。咲き誇る“バラ”を楽しむのはもちろん、“バラ”をテーマにしたスイーツやカクテルなどが出され、横浜の歴史を感じる街並みや港の風景とともに“バラ”を楽しむ「バラの街歩き」ができるイベントです。



マスコットキャラクター
ガーデンベアー

2 横浜市役所内の開催内容 開催期間：2022年5月12日（木）～5月16日（月）

(1) ローズフェア with 趣味の園芸

メインステージでは、期間中毎日「趣味の園芸」講師によるトークショーやフラワーアレンジメントの実演などが行われており、事前予約制で、多くの人が聴講していました。

ジャパンガーデンデザイナーズ協会会員によるガーデン展示では、愛知県在住の会員2名を含む6名が制作した“庭のあるライフスタイル”が展示されていました。

他にも、最新のガーデンローズとして2021年秋から2022年春に日本で紹介された世界中のガーデンローズが展示されていました。



“バラ” アレンジメント講演の様子



ガーデン展示の様子

(2) 日本一のバラ切花の展示

2021 年度に京都で開催された「第 63 回日本ばら切花品評会」(主催：日本ばら切花協会)の特別賞受賞者の“バラ”を一般消費者への PR を目的に展示していました。展示されていた中には愛知県の生産者 2 名の“バラ”も展示されており、多くの人が鑑賞していました。

(3) 2027 年国際園芸博覧会 PR コーナーの展示

2027 年 3 月～9 月に横浜市で開催される国際園芸博覧会の PR 展示がされており、西洋の“バラ”と日本の技を融合したバラ盆栽を展示しており、横浜中華街など、横浜市をテーマにした展示が行われていました。



バラ切花品評会
愛知県入賞者の“バラ”

国際園芸博覧会 PR 用のバラ盆栽

3 横浜駅周辺の開催内容

(1) ポルルンのローズガーデン 開催期間：2022 年 4 月 16 日 (土)～6 月 17 日 (金)

横浜駅東口と商業施設「横浜ポルタ」を結ぶ通路に、“バラ”を使ったフラワーアレンジメントなどを展示していました。多くの通行人に対して、花によるお出迎えをしており、「横浜ローズウィーク」を PR していました。

(2) 第 144 回バラ展 開催期間：2022 年 5 月 11 日 (水)～5 月 16 日 (月)

バラ愛好家が主体となる「横浜ばら会」が主催するバラ展が JR 高島屋催事場で開催されていました。

この展覧会は 70 年ほどの歴史があり、会場では、一般入場者による人気投票や育種した品種の展示がされていました。今回は中止となりましたが、例年はパヒューマー(香りを作る専門家)による香りのコンテストも開催されます。



第 144 回バラ展の様子

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：おおば）

| | 入 荷 量 (t) | 卸 売 価 格 (円/kg) | | 前年主要産地 (上位3産地) |
|---|--------------|--|---------------|--------------------------------|
| | | うち愛知産 | 愛知産 | |
| 2021年実績 | 284 | 271 (95%) | 2,576 / 2,588 | 愛知 (95%) 大分 (2%) 茨城 (1%) |
| 2022年見通し | 260 | — | 2,600 / — | |
| 概要と見通し | | 卸売市場から産地への要望・提言等 | | |
| <p>愛知の入荷が中心となる。新型コロナウイルスの影響で消費が低迷し、人件費の削減のため、人手を確保できていない産地が増えている。そのため、作付面積は昨年並だが、入荷量は減少している。 入荷量は前年よりかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p> | | <p>前年から厳しい販売状況が続いており、産地は苦勞をしていると思われる。生産量が減少してきているが、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、消費が回復した際に生産量を増加できるよう、引き続き準備をお願いしたい。</p> | | |

○ 東京都中央卸売市場（品目：ハウスみかん）

| | 入 荷 量 (t) | 卸 売 価 格 (円/kg) | | 前年主要産地 (上位3産地) |
|---|--------------|--|---------------|---------------------------------|
| | | うち愛知産 | 愛知産 | |
| 2021年実績 | 2,976 | 312 (10%) | 1,023 / 1,236 | 佐賀 (72%) 愛知 (11%) 長崎 (5%) |
| 2022年見通し | 2,900 | — | 1,020 / — | |
| 概要と見通し | | 卸売市場から産地への要望・提言等 | | |
| <p>佐賀を中心として愛知、長崎が大半を占める。 前年の入荷量は、平年をやや下回り、価格は、平年をかなり上回った。 本年の4月までの入荷量は、平年より多く、前年を下回った。価格は、平年より高く、前年を上回った。 今後は6月に入荷のピークを迎える。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p> | | <p>品質的に安定しているハウスみかんは、底堅い需要がある。また、中元商戦やお盆の時期を始めとしたギフト・お祝い品としての引き合いも強い。 なかでも愛知県産は、他産地よりも良食味で、品質も安定しており、果物専門店や量販店などからの信頼が高い。今後も信頼を維持していくために、出荷にあたってはこれまで以上に浮皮や着色などに注意して選果して欲しい。</p> | | |

名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し

名古屋市中央卸売市場

5月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--|------------------|--------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| 野菜計 | 2017年 | 31,384 | 243 | 235 | 243 | 239 | 愛知 21% |
| | 2018年 | 32,350 | 222 | 221 | 213 | 220 | 長野 19% |
| | 2019年 | 32,300 | 223 | 221 | 222 | 209 | 茨城 11% |
| | 2020年 | 32,759 | 249 | 249 | 238 | 245 | 兵庫 6% |
| | 2021年 | 33,945 | 238 | 252 | 234 | 212 | 青森 5% |
| | 5ヵ年平均 | 32,548 | 235 | — | — | — | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 31,700 | 256 | — | — | — | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 愛知、長野、茨城などから入荷する。4月の天候不順から、生育が遅れる品目もあるが、概ね平年並の入荷を予想する。入荷量は前年をかなり下回り、単価は前年をかなり上回る見込み。 | | | | | | | |
| だいこん | 2017年 | 1,392 | 110 | 88 | 134 | 117 | 青森 64% |
| | 2018年 | 1,410 | 101 | 103 | 109 | 100 | 愛知 18% |
| | 2019年 | 1,574 | 88 | 86 | 104 | 82 | 北海道 12% |
| | 2020年 | 1,579 | 111 | 120 | 112 | 108 | 岐阜 3% |
| | 2021年 | 1,528 | 113 | 119 | 126 | 99 | 千葉 3% |
| | 5ヵ年平均 | 1,497 | 105 | 103 | 117 | 101 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 1,450 | 120 | 120 | 120 | 120 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 青森を中心に愛知、北海道などから入荷する。愛知の入荷は上旬で終了の予定。後続産地の青森は例年より遅れ気味だが、中下旬には安定した入荷となり、数量は例年並の見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。 | | | | | | | |
| にんじん | 2017年 | 1,349 | 143 | 138 | 146 | 148 | 岐阜 48% |
| | 2018年 | 1,771 | 99 | 89 | 103 | 109 | 青森 12% |
| | 2019年 | 1,746 | 116 | 105 | 123 | 121 | 兵庫 9% |
| | 2020年 | 1,602 | 199 | 154 | 197 | 262 | 徳島 6% |
| | 2021年 | 1,914 | 132 | 137 | 138 | 121 | 茨城 5% |
| | 5ヵ年平均 | 1,677 | 136 | 124 | 140 | 150 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 1,600 | 130 | 120 | 130 | 140 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 岐阜を中心に、青森、兵庫などから入荷する。岐阜は生育順調で、中旬以降減少し、下旬頃に終了予定。後続産地の青森は少し遅れ気味で、下旬頃からの入荷を見込む。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年並の見込み。 | | | | | | | |

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--|------------------|---------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| 野菜計 | 2017年 | 130,803 | 258 | 247 | 270 | 258 | 千葉 16% |
| | 2018年 | 129,986 | 235 | 228 | 232 | 243 | 茨城 16% |
| | 2019年 | 125,077 | 238 | 228 | 245 | 242 | 長野 10% |
| | 2020年 | 125,334 | 265 | 262 | 256 | 278 | 群馬 10% |
| | 2021年 | 116,676 | 261 | 281 | 264 | 238 | 青森 5% |
| | 5ヵ年平均 | 125,575 | 251 | — | — | — | |
| | 2022年見通し | 120,000 | 260 | — | — | — | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 関東産地のほか、関東以北の高冷地や東北産地からの入荷が中心となる。多くの品目は生育に問題なく不足感のない出回りが見込まれる一方、梅雨入りで曇雨天が続くと入荷が不安定となる品目あるか。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。 | | | | | | | |
| だいこん | 2017年 | 8,071 | 109 | 81 | 143 | 112 | 青森 56% |
| | 2018年 | 7,110 | 101 | 100 | 108 | 95 | 千葉 19% |
| | 2019年 | 7,266 | 82 | 69 | 101 | 79 | 北海道 16% |
| | 2020年 | 7,172 | 103 | 103 | 102 | 104 | 栃木 3% |
| | 2021年 | 6,002 | 108 | 117 | 112 | 96 | 群馬 2% |
| | 5ヵ年平均 | 7,124 | 101 | 93 | 114 | 98 | |
| | 2022年見通し | 6,500 | 110 | 115 | 110 | 105 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 青森を中心に、千葉、北海道などから入荷する。関東産地から青森、北海道へと切り替わり、関東が多いのは上旬のみ。青森、北海道は干ばつの影響で生育は遅れ気味。端境が生じると一旦相場は上昇か。 入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年並となる見込み。 | | | | | | | |
| にんじん | 2017年 | 6,941 | 142 | 144 | 143 | 139 | 千葉 74% |
| | 2018年 | 6,867 | 102 | 103 | 98 | 105 | 茨城 8% |
| | 2019年 | 6,473 | 123 | 127 | 125 | 117 | 埼玉 6% |
| | 2020年 | 5,923 | 174 | 148 | 157 | 227 | 青森 5% |
| | 2021年 | 6,370 | 124 | 130 | 124 | 116 | 北海道 3% |
| | 5ヵ年平均 | 6,515 | 132 | 130 | 129 | 139 | |
| | 2022年見通し | 6,400 | 135 | 135 | 130 | 140 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| 千葉が大半で、そのほか茨城、埼玉などからの入荷となる。千葉では厳冬期の低温や乾燥により生育は遅れ気味。その他の産地は生育順調。全体量は多くなく、相場は堅調に推移するか。 入荷量は少なかった前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。 | | | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

5月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--------|--|-------|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ほうき | 2017年 | 1,614 | 87 | 75 | 99 | 91 | 長野 86% |
| | 2018年 | 1,714 | 83 | 81 | 83 | 85 | 茨城 12% |
| | 2019年 | 2,112 | 70 | 67 | 74 | 69 | 山梨 1% |
| | 2020年 | 2,288 | 82 | 111 | 73 | 70 | |
| | 2021年 | 2,317 | 79 | 119 | 75 | 59 | |
| | 5ヵ年平均 | 2,009 | 80 | 93 | 80 | 73 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 2,150 | 83 | 115 | 75 | 70 | |
| さい | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>長野を中心に茨城からも入荷する。漬物・加工業務は厳しい販売が続いている。長野は6月中旬から入荷ピークとなる見込み。茨城は作付面積が減少したため、例年より残量が少ない。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | | |
| キヤベツ | 2017年 | 3,658 | 88 | 83 | 88 | 94 | 茨城 48% |
| | 2018年 | 3,704 | 90 | 75 | 100 | 97 | 愛知 31% |
| | 2019年 | 3,555 | 86 | 100 | 82 | 80 | 長野 11% |
| | 2020年 | 3,805 | 104 | 104 | 109 | 100 | 群馬 3% |
| | 2021年 | 4,416 | 94 | 104 | 90 | 90 | 秋田 2% |
| | 5ヵ年平均 | 3,827 | 93 | 94 | 94 | 92 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 4,200 | 80 | 80 | 80 | 80 | |
| べ | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>茨城、愛知を中心に長野、群馬などからも入荷する。6月中旬までは、愛知、茨城中心の入荷を見込む。長野は6月中旬から、群馬は6月下旬から入荷開始の見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p> | | | | | | |
| ほうれんそう | 2017年 | 245 | 642 | 626 | 712 | 615 | 岐阜 68% |
| | 2018年 | 274 | 575 | 543 | 561 | 629 | 茨城 21% |
| | 2019年 | 270 | 560 | 518 | 547 | 641 | 長野 4% |
| | 2020年 | 264 | 611 | 557 | 602 | 715 | 静岡 3% |
| | 2021年 | 320 | 559 | 625 | 530 | 538 | 愛知 3% |
| | 5ヵ年平均 | 274 | 587 | 575 | 586 | 624 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 280 | 600 | 550 | 600 | 620 | |
| ん | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | <p>岐阜の飛騨地域を中心に茨城などから入荷する。低温、干ばつの影響で生育が遅れ、5月下旬からピークとなる見込み。梅雨入りが早ければ、月間を通じて不安定な入荷となる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p> | | | | | | |

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--------------------------|------------------|--|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ほういさ | 2017年 | 6, 292 | 72 | 47 | 83 | 85 | 長野 55% |
| | 2018年 | 6, 856 | 73 | 58 | 76 | 82 | 茨城 24% |
| | 2019年 | 6, 334 | 57 | 46 | 64 | 62 | 群馬 20% |
| | 2020年 | 7, 542 | 69 | 78 | 62 | 67 | 山梨 1% |
| | 2021年 | 6, 188 | 72 | 90 | 69 | 57 | |
| | 5ヵ年平均 | 6, 642 | 69 | 64 | 71 | 71 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 6, 300 | 75 | 80 | 75 | 70 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>長野を中心に、茨城、群馬などからの入荷となる。茨城は終盤で終了に向かう。長野は生育順調で順次量を増やし、群馬からの入荷も本格化していく。端境が出るなら上旬で、一旦相場を上げるか。 入荷量は少なかった前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | |
| | | <p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は7月～10月にかけて増加傾向にあり、11月以降は減少傾向にある。単価は7月～9月にかけて急激に上昇し、10月以降は比較的安定している。</p> | | | | | |
| キャベツ | 2017年 | 15, 325 | 78 | 74 | 76 | 85 | 千葉 40% |
| | 2018年 | 15, 878 | 80 | 61 | 85 | 92 | 茨城 31% |
| | 2019年 | 16, 644 | 76 | 82 | 71 | 73 | 群馬 16% |
| | 2020年 | 16, 917 | 90 | 90 | 88 | 92 | 愛知 3% |
| | 2021年 | 15, 497 | 86 | 87 | 83 | 89 | 神奈川 3% |
| | 5ヵ年平均 | 16, 052 | 82 | 79 | 81 | 86 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 15, 900 | 85 | 85 | 80 | 90 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>千葉や茨城など関東産地からの入荷が中心となる。関東の平地から群馬等の高冷地へと切り替わる。低温等の影響による生育遅れは解消傾向で、群馬は中旬から増量していく。産地の切り替わりは順調とみる。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p> | | | | | |
| | | <p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は7月～10月にかけて増加傾向にあり、11月以降は減少傾向にある。単価は7月～9月にかけて急激に上昇し、10月以降は比較的安定している。</p> | | | | | |
| ほうれんそう | 2017年 | 1, 311 | 490 | 493 | 532 | 446 | 群馬 37% |
| | 2018年 | 1, 325 | 467 | 427 | 450 | 525 | 茨城 30% |
| | 2019年 | 1, 227 | 450 | 385 | 466 | 512 | 栃木 18% |
| | 2020年 | 1, 283 | 503 | 475 | 477 | 579 | 岐阜 4% |
| | 2021年 | 1, 406 | 428 | 464 | 400 | 413 | 岩手 4% |
| | 5ヵ年平均 | 1, 310 | 467 | 450 | 464 | 493 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 1, 400 | 450 | 450 | 440 | 460 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調も、一部では多雨や干ばつによる生育遅延がみられる。潤沢な入荷が続き、全体量は多いと見込まれる。 入荷量は多かった前年並となり、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | |
| | | <p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は7月～10月にかけて増加傾向にあり、11月以降は減少傾向にある。単価は7月～9月にかけて急激に上昇し、10月以降は比較的安定している。</p> | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

5月13日現在

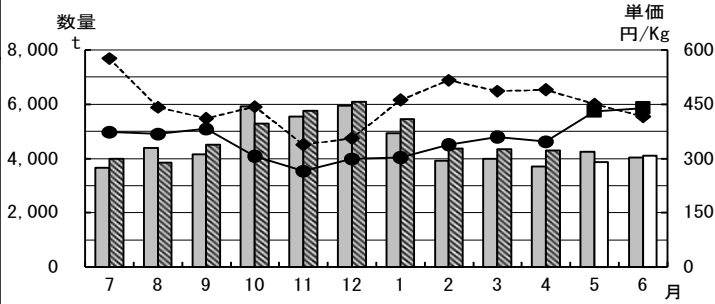
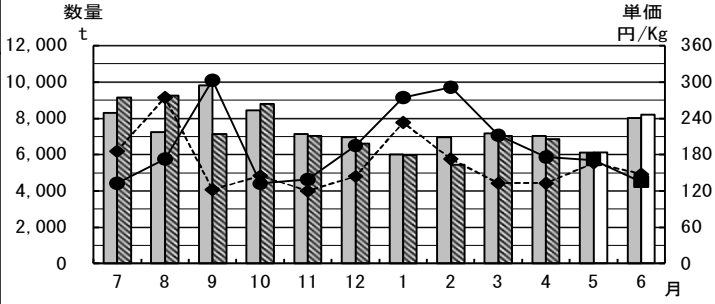
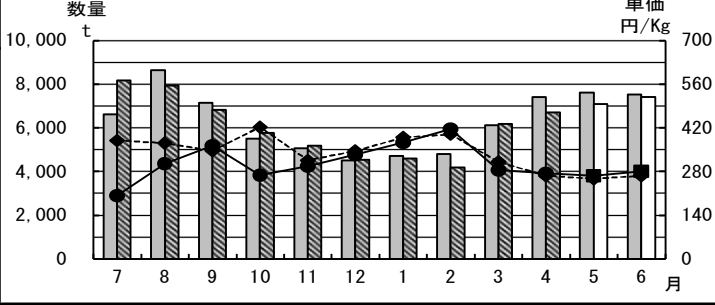
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | | |
|------|---|-------|------|-----|-----|----------------------|----------------------|-----|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | |
| ねぎ | 2017年 | 584 | 446 | 447 | 447 | 大分 | 32% | |
| | 2018年 | 575 | 444 | 480 | 456 | 愛知 | 20% | |
| | 2019年 | 591 | 429 | 445 | 433 | 静岡 | 12% | |
| | 2020年 | 572 | 501 | 488 | 491 | 茨城 | 10% | |
| | 2021年 | 585 | 458 | 485 | 463 | 中国 | 5% | |
| | 5ヵ年平均 | 582 | 455 | 469 | 458 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | | |
| | 2022年見通し | 550 | 420 | 410 | 420 | 430 | | |
| ねぎ | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| | <p>大分、愛知、静岡などから入荷する。大分は新ねぎの入荷がピークとなる見込み。愛知の夏ねぎは順調な入荷となり、静岡は夏ねぎが出揃う見込み。各産地、天候次第で入荷量が大きく変化する。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p> | | | | | | | |
| しそ | 2017年 | 2,201 | 136 | 145 | 151 | 120 | 長野 | 99% |
| | 2018年 | 2,150 | 143 | 157 | 134 | 142 | 山梨 | 1% |
| | 2019年 | 2,231 | 124 | 122 | 125 | 124 | | |
| | 2020年 | 2,705 | 116 | 145 | 99 | 110 | | |
| | 2021年 | 2,474 | 142 | 215 | 145 | 102 | | |
| | 5ヵ年平均 | 2,352 | 132 | 158 | 130 | 119 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| | 2022年見通し | 2,200 | 140 | 160 | 130 | 130 | | |
| しそ | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| | <p>長野からほぼ全量を入荷する。生育は順調であり、数量は潤沢である見込み。準高冷地から高冷地へ産地が移行する時期のため、6月上旬がやや減少する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p> | | | | | | | |
| きゅうり | 2017年 | 1,593 | 247 | 236 | 261 | 246 | 愛知 | 31% |
| | 2018年 | 1,609 | 270 | 248 | 263 | 300 | 長野 | 20% |
| | 2019年 | 1,671 | 259 | 229 | 274 | 279 | 群馬 | 16% |
| | 2020年 | 1,881 | 280 | 269 | 244 | 346 | 宮崎 | 9% |
| | 2021年 | 1,762 | 273 | 299 | 275 | 236 | 高知 | 9% |
| | 5ヵ年平均 | 1,703 | 266 | 257 | 263 | 283 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| | 2022年見通し | 1,650 | 265 | 250 | 270 | 260 | | |
| きゅうり | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | | |
| | <p>愛知、群馬などの冬春作、長野などの夏秋作が入荷する。各産地の作柄は良好で、安定した入荷となる見込み。夏秋産地については、北海道が下旬から入荷見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p> | | | | | | | |

東京都中央卸売市場

5月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|------|--|----------|--|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ねぎ | 2017年 | 4, 2 2 2 | 4 4 7 | 423 | 451 | 470 | 茨城 60% |
| | 2018年 | 4, 4 3 3 | 3 9 5 | 388 | 401 | 397 | 千葉 21% |
| | 2019年 | 4, 2 2 3 | 4 2 1 | 427 | 439 | 395 | 福岡 3% |
| | 2020年 | 4, 2 7 8 | 4 6 4 | 444 | 444 | 509 | 栃木 3% |
| | 2021年 | 4, 0 3 1 | 4 1 7 | 433 | 426 | 391 | 埼玉 3% |
| | 5ヵ年平均 | 4, 2 3 7 | 4 2 9 | 423 | 432 | 433 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 4, 1 0 0 | 4 4 0 | 460 | 440 | 420 | |
| ねぎ | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | |  | | | | |
| | <p>茨城を中心に、千葉などから入荷する。茨城はおおむね生育順調。抽苔が多い地域があるものの、肥大は良好で太物比率は高い。千葉も生育、肥大ともに良好。天候次第ではあるが、出回りは潤沢な見込み。 入荷量は少なかった前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | | |
| し | 2017年 | 8, 8 2 6 | 1 3 2 | 137 | 146 | 115 | 長野 76% |
| | 2018年 | 8, 5 2 7 | 1 3 5 | 143 | 123 | 137 | 群馬 20% |
| | 2019年 | 7, 8 9 1 | 1 1 5 | 114 | 117 | 115 | 茨城 1% |
| | 2020年 | 8, 5 9 6 | 1 1 4 | 144 | 98 | 106 | 岩手 1% |
| | 2021年 | 8, 0 2 2 | 1 4 8 | 220 | 139 | 99 | 千葉 1% |
| | 5ヵ年平均 | 8, 3 7 2 | 1 2 9 | 151 | 125 | 115 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 8, 2 0 0 | 1 3 5 | 140 | 135 | 130 | |
| し | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | |  | | | | |
| | <p>長野を中心に、群馬などから入荷する。群馬は生育が前進傾向で量を減らしていく。入荷がピークに入る長野はおおむね生育順調。一部では生育遅れがみられる。総じて潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p> | | | | | | |
| きゅうり | 2017年 | 7, 5 6 9 | 2 5 7 | 250 | 282 | 239 | 埼玉 25% |
| | 2018年 | 7, 1 2 0 | 2 7 4 | 230 | 267 | 324 | 群馬 25% |
| | 2019年 | 6, 9 1 1 | 2 6 9 | 230 | 306 | 281 | 福島 14% |
| | 2020年 | 7, 7 1 5 | 2 8 2 | 272 | 244 | 344 | 千葉 8% |
| | 2021年 | 7, 5 3 4 | 2 6 6 | 314 | 268 | 212 | 茨城 8% |
| | 5ヵ年平均 | 7, 3 7 0 | 2 7 0 | 260 | 273 | 280 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 7, 4 0 0 | 2 8 0 | 280 | 285 | 275 | |
| きゅうり | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | |  | | | | |
| | <p>埼玉、群馬などの関東産地が入荷の中心となる一方、東北産地が増えていく。関東の各産地は生育順調も量を減らしていく。福島は低温による生育遅れがみられるも入荷量に不安はなく、総じて潤沢とみる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p> | | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

5月13日現在

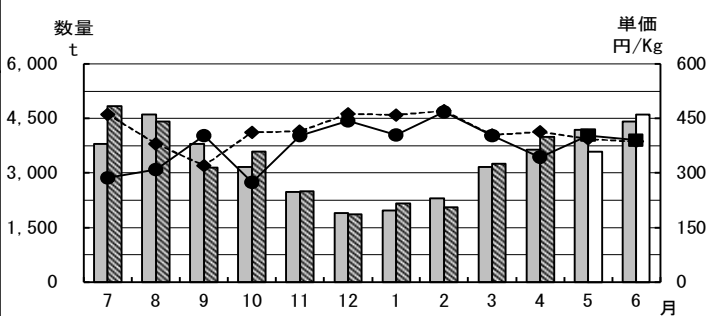
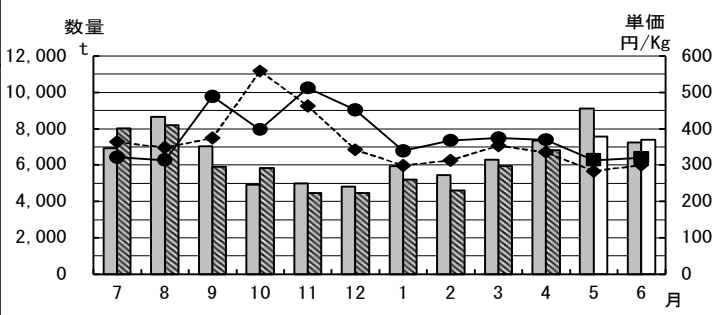
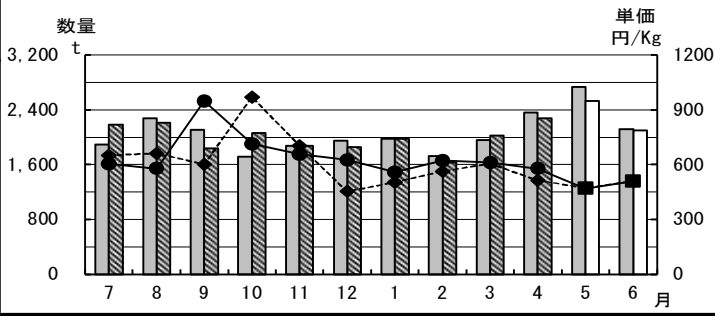
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--------------------------|-------------------|---|------------|------------|------------|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| な す | 2017年 | 1,142 | 331 | 339 | 333 | 323 | 愛知 34% |
| | 2018年 | 1,021 | 347 | 343 | 355 | 349 | 熊本 30% |
| | 2019年 | 1,076 | 327 | 318 | 342 | 325 | 宮崎 25% |
| | 2020年 | 1,110 | 330 | 306 | 325 | 367 | 高知 4% |
| | 2021年 | 880 | 376 | 384 | 394 | 352 | 群馬 3% |
| | 5ヵ年平均 2022年見通し | 1,046 950 | 341 350 | 336 350 | 348 350 | 343 350 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>愛知、熊本、宮崎を中心に入荷する。4月の天候不順により5月入荷が減少し、6月入荷が増える見込み。冬春作の愛知、熊本は6月上旬までは順調な入荷、下旬から減少する見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格はかなり下回る見込み。</p> | | | | | |
| ト マ ト | 2017年 | 1,700 | 272 | 254 | 252 | 312 | 熊本 34% |
| | 2018年 | 1,723 | 226 | 203 | 209 | 265 | 愛知 29% |
| | 2019年 | 1,737 | 213 | 200 | 215 | 229 | 三重 14% |
| | 2020年 | 1,724 | 224 | 203 | 208 | 275 | 岐阜 13% |
| | 2021年 | 1,468 | 265 | 239 | 274 | 300 | 大分 4% |
| | 5ヵ年平均 2022年見通し | 1,670 1,700 | 239 265 | 219 250 | 230 270 | 275 300 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>熊本、愛知を中心に三重、岐阜などから入荷する。作柄は良好だが、例年より小玉傾向。夏秋産について、定植面積は前年並で天候次第だが、入荷は例年並の見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並の見込み。</p> | | | | | |
| ミ ニ ト マ ト | 2017年 | 565 | 607 | 582 | 607 | 640 | 熊本 48% |
| | 2018年 | 650 | 494 | 474 | 477 | 534 | 愛知 32% |
| | 2019年 | 717 | 441 | 413 | 425 | 506 | 北海道 9% |
| | 2020年 | 693 | 455 | 409 | 462 | 516 | 和歌山 6% |
| | 2021年 | 664 | 543 | 490 | 559 | 613 | 茨城 4% |
| | 5ヵ年平均 2022年見通し | 658 650 | 504 500 | 469 450 | 501 500 | 558 550 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>熊本、愛知を中心に北海道、和歌山などから入荷する。熊本の入荷は終盤となる。夏秋産地の北海道、茨城からの入荷が始まり、産地の切替のため、月末に向かって単価が上がる見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p> | | | | | |

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

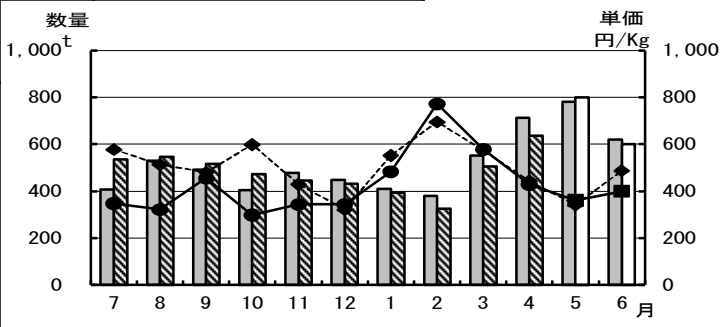
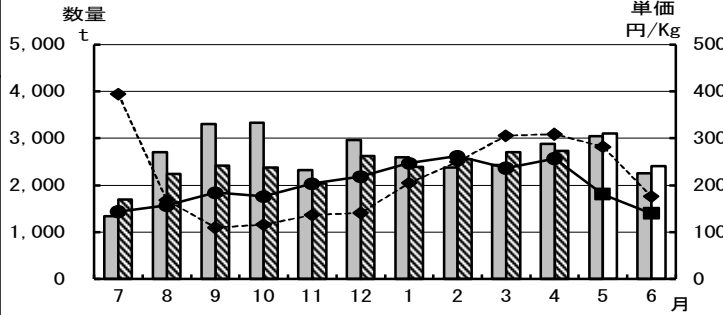
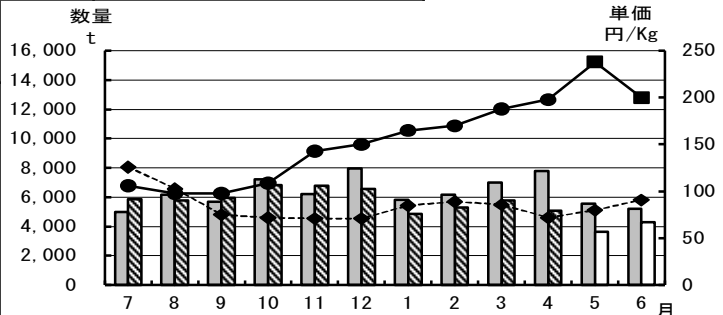
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--------------------------|------------------|---|------|-----|-----|------------|--|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| な す | 2017年 | 5,485 | 354 | 347 | 375 | 342 | 高知 30% |
| | 2018年 | 4,610 | 389 | 368 | 409 | 391 | 群馬 19% |
| | 2019年 | 4,516 | 378 | 374 | 410 | 353 | 福岡 12% |
| | 2020年 | 4,669 | 385 | 352 | 371 | 445 | 茨城 10% |
| | 2021年 | 4,417 | 386 | 421 | 395 | 344 | 熊本 8% |
| | 5ヵ年平均 | 4,739 | 377 | 371 | 391 | 374 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 4,600 | 390 | 400 | 390 | 380 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>高知や福岡などの西南暖地と、群馬などの関東産地からの入荷となる。西南暖地から関東産地へ移行する。各産地とも生育順調。不足感のない出回りが見込まれるものの、天候次第で減らすことが懸念される。入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p> | | | | |  |
| ト マ ト | 2017年 | 8,788 | 306 | 272 | 299 | 356 | 栃木 23% |
| | 2018年 | 8,385 | 268 | 238 | 249 | 320 | 熊本 17% |
| | 2019年 | 8,511 | 253 | 220 | 272 | 277 | 愛知 10% |
| | 2020年 | 8,345 | 272 | 251 | 248 | 342 | 千葉 10% |
| | 2021年 | 7,249 | 300 | 272 | 315 | 324 | 茨城 10% |
| | 5ヵ年平均 | 8,256 | 279 | 250 | 276 | 324 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 7,400 | 320 | 320 | 320 | 320 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>栃木など関東産地や熊本、愛知からの入荷となる。主力の栃木はじめ各産地とも生育はおおむね順調で、小玉傾向は回復か。終盤の熊本、愛知は量を減らしていく。入荷量に大きな山谷はない見込み。入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p> | | | | |  |
| ミ ニ ト マ ト | 2017年 | 2,028 | 578 | 545 | 566 | 628 | 熊本 31% |
| | 2018年 | 2,187 | 469 | 434 | 444 | 533 | 愛知 20% |
| | 2019年 | 2,323 | 424 | 382 | 431 | 476 | 千葉 13% |
| | 2020年 | 2,333 | 420 | 374 | 413 | 490 | 茨城 12% |
| | 2021年 | 2,119 | 508 | 470 | 528 | 539 | 静岡 8% |
| | 5ヵ年平均 | 2,198 | 477 | 438 | 473 | 531 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 2,100 | 510 | 490 | 510 | 530 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>熊本、愛知を中心に、茨城、千葉などから入荷する。熊本、愛知は終盤に入る。各産地とも生育は概ね順調も、曇雨天の影響で小玉傾向。天候次第で肥大回復に期待も、大きな入荷増はなく相場は堅調か。入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p> | | | | |  |

名古屋市中央卸売市場

5月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|---|---|--|--|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ピーマン | 2017年 | 682 | 295 | 290 | 303 | 333 | 茨城 59% |
| | 2018年 | 580 | 317 | 283 | 300 | 416 | 高知 20% |
| | 2019年 | 548 | 344 | 316 | 341 | 403 | 宮崎 13% |
| | 2020年 | 615 | 459 | 419 | 457 | 466 | 鹿児島 6% |
| | 2021年 | 621 | 488 | 472 | 550 | 437 | |
| | 5ヵ年平均 | 609 | 380 | 356 | 391 | 409 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 600 | 400 | 350 | 400 | 450 | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | |  | | | | |
| | <p>茨城、高知、宮崎を中心に入荷する。宮崎の促成栽培が6月上旬で終了となり、高知、茨城、宮崎の夏秋へと移行する。各産地作柄は良好で、安定した入荷となる見込みだが、茨城は雨の影響が少し出る恐れ。入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p> | | | | | | |
| | ばれいしょ | 2017年 | 2,517 | 154 | 146 | 151 | 168 |
| 2018年 | | 2,663 | 72 | 97 | 72 | 55 | 静岡 19% |
| 2019年 | | 2,143 | 137 | 120 | 142 | 157 | 熊本 4% |
| 2020年 | | 2,096 | 287 | 271 | 278 | 324 | 鹿児島 3% |
| 2021年 | | 2,257 | 176 | 220 | 153 | 137 | 北海道 3% |
| 5ヵ年平均 | | 2,335 | 160 | 167 | 155 | 162 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 2022年見通し | | 2,400 | 140 | 140 | 140 | 140 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | |  | | | | | |
| <p>長崎を中心に静岡、熊本などから入荷する。各産地、作柄は良好で2L、L中心の入荷となる見込み。長崎は中旬以降入荷が減少、静岡は上旬から中旬に入荷がピークとなる見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p> | | | | | | | |
| たまねぎ | | 2017年 | 4,527 | 90 | 97 | 90 | 83 |
| | 2018年 | 4,815 | 75 | 84 | 73 | 79 | 兵庫 35% |
| | 2019年 | 4,720 | 76 | 81 | 79 | 71 | 北海道 12% |
| | 2020年 | 4,342 | 87 | 85 | 89 | 89 | 中国 1% |
| | 2021年 | 5,207 | 91 | 96 | 89 | 90 | 熊本 1% |
| | 5ヵ年平均 | 4,722 | 84 | 89 | 84 | 82 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 4,300 | 200 | 200 | 200 | 200 | |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | |  | | | | |
| | <p>愛知と兵庫を中心に北海道などから入荷する。生育は例年並みで順調な出荷となる見込み。愛知、兵庫ともに品種が切り替わる時期で、2L、L中心の入荷を見込む。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p> | | | | | | |

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|--------------------------|------------------|---|------|-----|-----|------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| ピーマン | 2017年 | 2,610 | 339 | 324 | 341 | 355 | 茨城 80% |
| | 2018年 | 2,342 | 368 | 323 | 350 | 431 | 高知 6% |
| | 2019年 | 2,441 | 372 | 337 | 377 | 410 | 岩手 6% |
| | 2020年 | 2,482 | 492 | 473 | 505 | 497 | 宮崎 5% |
| | 2021年 | 2,309 | 505 | 508 | 603 | 412 | 千葉 1% |
| | 5ヵ年平均 | 2,437 | 414 | 392 | 433 | 420 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 2,200 | 510 | 500 | 520 | 510 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>茨城からの入荷を大半に、最終盤となる西南暖地などからの入荷となる。茨城は曇雨天の影響で生育順調とは言えず、着果や肥大も不良。後続の岩手は順調も、全体量は少なめとなるか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年並となる見込み。</p> | | | | | |
| | | | | | | | |
| ばれいしょ | 2017年 | 9,043 | 148 | 149 | 146 | 148 | 長崎 53% |
| | 2018年 | 9,497 | 69 | 77 | 68 | 62 | 静岡 15% |
| | 2019年 | 7,621 | 138 | 123 | 140 | 157 | 千葉 10% |
| | 2020年 | 6,720 | 282 | 283 | 273 | 293 | 茨城 7% |
| | 2021年 | 7,796 | 178 | 223 | 164 | 140 | 熊本 6% |
| | 5ヵ年平均 | 8,135 | 156 | 164 | 151 | 152 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 7,900 | 120 | 150 | 120 | 90 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>長崎を中心に静岡や関東産地などからの入荷となる。長崎は生育順調も、小玉傾向で大玉比率は低い。続く静岡は低温や干ばつによる生育遅延から回復し大玉傾向を見込む。総じて出回りに不足はない見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p> | | | | | |
| | | | | | | | |
| たまねぎ | 2017年 | 10,441 | 101 | 104 | 99 | 99 | 佐賀 40% |
| | 2018年 | 12,092 | 75 | 80 | 71 | 75 | 兵庫 23% |
| | 2019年 | 11,214 | 74 | 73 | 71 | 78 | 北海道 8% |
| | 2020年 | 10,048 | 95 | 98 | 89 | 99 | 香川 6% |
| | 2021年 | 9,179 | 106 | 108 | 103 | 107 | 栃木 6% |
| | 5ヵ年平均 | 10,595 | 89 | 92 | 85 | 90 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| | 2022年見通し | 9,000 | 265 | 275 | 260 | 260 | |
| 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | <p>佐賀を中心に、兵庫などからの入荷となる。佐賀は小玉傾向で大玉比率が低い。兵庫も肥大不足傾向も、降雨により肥大良好となっていく見込み。全体量は多くなく高値が続くと見込まれる。 入荷量は少なかった前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に上回る見込み。</p> | | | | | |
| | | | | | | | |

名古屋市中央卸売市場

※「その他メロン」は「アールスメロン」以外のメロンをいう。

5月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|-----------------------|--|-------|------|-----|-----|----------------------|----------------------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| 果 | 2017年 | 7,774 | 406 | 400 | 442 | フィリピン 20% | |
| | 2018年 | 7,209 | 429 | 399 | 473 | 愛知 19% | |
| | 2019年 | 6,506 | 447 | 438 | 479 | 青森 11% | |
| | 2020年 | 6,466 | 475 | 476 | 514 | 熊本 10% | |
| | 2021年 | 6,667 | 455 | 466 | 491 | ニュージーランド 8% | |
| | 5ヵ年平均 | 6,924 | 441 | — | — | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き | |
| 2022年見通し | 6,800 | 440 | — | — | | | |
| 実計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | すいか、メロンを中心に、ぶどうなどが増量していく。みかん、ぶどうについては、重油高の影響から生育が遅れ気味。いちじくは生産者が減っており、やや減産傾向となっている。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。 | | | | | | |
| その他メロン (アールスメロン以外) | 2017年 | 872 | 323 | 360 | 313 | 311 | 熊本 34% |
| | 2018年 | 732 | 299 | 322 | 281 | 312 | 愛知 31% |
| | 2019年 | 750 | 349 | 371 | 349 | 336 | 茨城 18% |
| | 2020年 | 627 | 387 | 383 | 398 | 389 | その他 6% |
| | 2021年 | 589 | 391 | 398 | 400 | 393 | 長崎 4% |
| | 5ヵ年平均 | 714 | 346 | 365 | 343 | 344 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 2022年見通し | 600 | 400 | 400 | 400 | 400 | | |
| 実計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | 熊本、愛知、茨城などから入荷する。どの産地も栽培面積が減り、生産量が減少しているため、単価が上がる見込み。 入荷量は前年並、価格は前年をわずかに上回る見込み。 | | | | | | |
| す | 2017年 | 2,468 | 188 | 215 | 172 | 175 | 愛知 44% |
| | 2018年 | 2,208 | 190 | 190 | 188 | 193 | 熊本 23% |
| | 2019年 | 1,952 | 228 | 237 | 235 | 214 | 鳥取 18% |
| | 2020年 | 2,107 | 252 | 267 | 256 | 235 | 和歌山 8% |
| | 2021年 | 1,803 | 232 | 237 | 229 | 232 | 石川 5% |
| | 5ヵ年平均 | 2,107 | 216 | 228 | 214 | 208 | 前年及び本年の 入荷量・価格の動き |
| 2022年見通し | 1,900 | 240 | 250 | 240 | 230 | | |
| 実計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | 愛知、熊本を中心に鳥取などからも入荷する。愛知は春の着花不良により、6月末から入荷が減り始める見込み。熊本は上旬で終了し、空洞果が多く、秀品率が低い見込み。 入荷量、価格ともに前年をやや上回る見込み。 | | | | | | |

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

| 品目名 | 区分 実績 と見通し | 入荷量 | 卸売価格 | | | 前年主要産地 (%) | |
|-----------------------|--|------------------|------------|------------|------------|------------|----------|
| | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| 果 | 2017年 | 29,766 | 432 | 405 | 433 | 458 | 茨城 18% |
| | 2018年 | 28,251 | 472 | 418 | 485 | 506 | 千葉 17% |
| | 2019年 | 25,493 | 483 | 440 | 495 | 511 | 青森 12% |
| | 2020年 | 24,892 | 526 | 421 | 519 | 574 | フィリピン 8% |
| | 2021年 | 24,907 | 501 | 452 | 487 | 561 | 熊本 8% |
| | 5ヵ年平均 2022年見通し | 26,662 24,400 | 481 500 | — — | — — | — — | — — |
| 実計 | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | すいか、メロンを中心におうとう、ももなどが入荷する。 おうとう、もも、すももの入荷量は前年並となる見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。 | | | | | | |
| その他メロン (アールスメロン以外) | 2017年 | 4,441 | 384 | 426 | 383 | 362 | 茨城 71% |
| | 2018年 | 4,382 | 371 | 376 | 372 | 366 | 千葉 16% |
| | 2019年 | 4,038 | 404 | 418 | 415 | 378 | 熊本 6% |
| | 2020年 | 3,767 | 433 | 430 | 435 | 435 | 山形 4% |
| | 2021年 | 3,876 | 435 | 427 | 432 | 448 | 北海道 1% |
| | 5ヵ年平均 2022年見通し | 4,101 3,780 | 404 430 | 416 425 | 407 435 | 398 430 | — — |
| | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | クインシー、アンデスは茨城、タカミは千葉、茨城を中心に入荷する。 生育期の天候不順の影響により生育は遅れる見込み。 入荷量は、前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。 | | | | | | |
| す | 2017年 | 10,759 | 206 | 239 | 195 | 184 | 千葉 40% |
| | 2018年 | 9,055 | 214 | 212 | 211 | 217 | 茨城 18% |
| | 2019年 | 8,719 | 246 | 258 | 247 | 233 | 鳥取 17% |
| | 2020年 | 9,161 | 274 | 275 | 285 | 253 | 熊本 16% |
| | 2021年 | 8,559 | 252 | 248 | 247 | 260 | 群馬 4% |
| | 5ヵ年平均 2022年見通し | 9,251 8,350 | 237 265 | 246 275 | 237 265 | 229 260 | — — |
| いか | 産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し | | | | | | |
| | 大玉は千葉、鳥取、熊本、小玉は茨城、和歌山を中心に入荷する。 小玉は、生育期の天候不順の影響により、入荷量は少なくなる見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや上回る見込み。 | | | | | | |

切花・鉢花の6月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月31日現在）

単位：千本、円／本

| 品目 | 区分 | | 入荷量 | 卸売価格 | 前年及び本年の入荷量・価格の動き |
|-----------------------------|----------|--|-------|------|------------------|
| | 実績等 | | | | |
| 輪 ぎ | 実績 | 2017年 | 1,798 | 38 | |
| | | 2018年 | 1,599 | 42 | |
| | | 2019年 | 1,471 | 38 | |
| | | 2020年 | 1,139 | 43 | |
| | | 2021年 | 1,334 | 39 | |
| | 5ヶ年平均 | 1,468 | 40 | | |
| | 2022年見通し | 1,300 | 40 | | |
| | 概要 | 愛知、奈良、埼玉、沖縄から入荷する。県内の夏秋期産地の入荷も始まったが、作付けは例年と比べると少ない。相場展開も横ばいで推移する予定。 | | | |
| 小 ぎ | 実績 | 2017年 | 1,401 | 22 | |
| | | 2018年 | 1,260 | 29 | |
| | | 2019年 | 1,130 | 19 | |
| | | 2020年 | 1,099 | 33 | |
| | | 2021年 | 902 | 42 | |
| | 5ヶ年平均 | 1,158 | 28 | | |
| | 2022年見通し | 900 | 35 | | |
| | 概要 | 愛知、奈良、埼玉、沖縄から入荷する。上旬の入荷量は少なく、中旬以降は安定した入荷となる見込み。 | | | |
| カー ネ ー シ ョ ン | 実績 | 2017年 | 1,070 | 41 | |
| | | 2018年 | 1,123 | 40 | |
| | | 2019年 | 913 | 41 | |
| | | 2020年 | 918 | 40 | |
| | | 2021年 | 776 | 53 | |
| | 5ヶ年平均 | 960 | 43 | | |
| | 2022年見通し | 800 | 50 | | |
| | 概要 | 長野中心に入荷が切り替わる。例年よりも愛知の植え替えはやや早めに進んでいる。世界情勢の影響により輸入品の入荷は難しくなっており、全体的には若干少なめの予想。 | | | |
| か す み | 実績 | 2017年 | 105 | 93 | |
| | | 2018年 | 126 | 89 | |
| | | 2019年 | 104 | 82 | |
| | | 2020年 | 111 | 76 | |
| | | 2021年 | 101 | 110 | |
| | 5ヶ年平均 | 109 | 90 | | |
| | 2022年見通し | 100 | 110 | | |
| | 概要 | 上旬は長野産中心の入荷となり、中旬から福島産の入荷が始まる見込み。西南暖地の切上がり早く、上旬の入荷量は多くない見込み。 | | | |

単位：千本、円／本

| 品目 | 区分 | | 入荷量 | 卸売価格 | 前年及び本年の入荷量・価格の動き |
|-------------|--|-------|-------|------|------------------|
| | 実績等 | | | | |
| ゆ り | 実績 | 2017年 | 340 | 143 | |
| | | 2018年 | 325 | 133 | |
| | | 2019年 | 290 | 124 | |
| | | 2020年 | 305 | 104 | |
| | | 2021年 | 249 | 146 | |
| | 5ヶ年平均 | | 302 | 130 | |
| | 2022年見通し | | 250 | 130 | |
| 概要 | <p>西南暖地については6月の出荷分の作付けを減らしており、上中旬の入荷は減少しそう。新潟産については生育順調。需要の多くない月であるため、相場は軟調予想。</p> | | | | |
| 洋 ら ん | 実績 | 2017年 | 330 | 89 | |
| | | 2018年 | 357 | 76 | |
| | | 2019年 | 262 | 83 | |
| | | 2020年 | 218 | 86 | |
| | | 2021年 | 209 | 103 | |
| | 5ヶ年平均 | | 275 | 86 | |
| | 2022年見通し | | 210 | 100 | |
| 概要 | <p>鹿児島、愛知、静岡、輸入品が入荷する。胡蝶蘭は輸入品は海外の引合いも落ち着き、増加の見込み。カトレアは入荷のピークも過ぎて、昨年並の入荷となる。オンシジウムは4Lを中心に徐々に増加していく。デンファレはアンナが切上がり、ソニア中心になるが、総量としては5月末よりも減少していく。</p> | | | | |
| ば ら | 実績 | 2017年 | 838 | 52 | |
| | | 2018年 | 700 | 61 | |
| | | 2019年 | 677 | 47 | |
| | | 2020年 | 628 | 48 | |
| | | 2021年 | 680 | 56 | |
| | 5ヶ年平均 | | 705 | 53 | |
| | 2022年見通し | | 700 | 55 | |
| 概要 | <p>愛知、岐阜、三重、山形を中心に入荷。前半に入荷の山が来る模様。植え替えも今年は多い予想だが、全体量としては例年並の入荷が見込まれる。</p> | | | | |
| 枝 も の | 実績 | 2017年 | 1,423 | 46 | |
| | | 2018年 | 1,337 | 46 | |
| | | 2019年 | 1,130 | 50 | |
| | | 2020年 | 973 | 52 | |
| | | 2021年 | 969 | 60 | |
| | 5ヶ年平均 | | 1,166 | 50 | |
| | 2022年見通し | | 980 | 55 | |
| 概要 | <p>長野、岐阜を中心に入荷する。例年より少し遅れて長野産などの花木の入荷が始まった。不作であった昨年よりは落ち着きはあるもののスモークツリーの引き合いは強く、高値安定。今後はフサスグリ、ブルーベリーなどの実物へ変わっていく。中旬ごろには長野県産の草花類なども出そろってくる。</p> | | | | |

| 品目 | 区分 | | 入荷量 | 卸売価格 | 前年及び本年の入荷量・価格の動き |
|--------------------------------------|---|-------|--------|-------|------------------|
| | 実績等 | | | | |
| ア ン ス リ ウ ム | 実 績 | 2017年 | 18,392 | 1,017 | |
| | | 2018年 | 18,915 | 963 | |
| | | 2019年 | 18,131 | 916 | |
| | | 2020年 | 23,252 | 975 | |
| | | 2021年 | 19,615 | 967 | |
| | 5か年平均 | | 19,661 | 968 | |
| | 2022年見通し | | 19,500 | 964 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年並か。作柄に変更はなく、6号MIX主体の出荷構成になる。 色目は赤・ピンク・白が主体になる見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（86.0%）、2位長崎（8.2%）、3位徳島（3.2%）となっている。</p> | | | | |
| フ ア レ ノ プ シ ス | 実 績 | 2017年 | 23,351 | 3,474 | |
| | | 2018年 | 24,258 | 2,710 | |
| | | 2019年 | 23,864 | 3,077 | |
| | | 2020年 | 21,287 | 3,388 | |
| | | 2021年 | 19,575 | 3,715 | |
| | 5か年平均 | | 22,467 | 3,250 | |
| | 2022年見通し | | 19,500 | 3,718 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年並か。コロナによる販売不振の解消や海外からの苗供給も見通しがついてきている為である。しかし、販売単価が伸び悩んでいるミディーの生産量は回復せず前年より入荷量は減る見込み。近年、白ミディーの定番であるアマビリスの生産量が減少している。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（58.4%）、2位静岡（7.4%）、3位宮崎（4.5%）となっている。</p> | | | | |
| バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ | 実 績 | 2017年 | 27,758 | 162 | |
| | | 2018年 | 20,283 | 129 | |
| | | 2019年 | 17,970 | 120 | |
| | | 2020年 | 30,115 | 130 | |
| | | 2021年 | 23,245 | 158 | |
| | 5か年平均 | | 23,874 | 141 | |
| | 2022年見通し | | 23,000 | 152 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年並か。中・大鉢仕立ては下旬に向け減少し、例年通りの小鉢中心の入荷となる見込み。コロナ禍の影響で人員確保が難しく減産傾向が続いている。需要期を過ぎ、中値～安値安定になる見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（56.6%）、2位愛知（27.7%）、3位愛媛（7.4%）となっている。</p> | | | | |

単位：鉢、円／鉢

| 品目 | 区分 | | 入荷量 | 卸売価格 | 前年及び本年の入荷量・価格の動き |
|--------------------------------------|--|-------|--------|------|------------------|
| | 実績等 | | | | |
| ハイ ド ラ | 実 績 | 2017年 | 72,862 | 500 | |
| | | 2018年 | 53,206 | 524 | |
| | | 2019年 | 72,955 | 522 | |
| | | 2020年 | 62,966 | 552 | |
| | | 2021年 | 51,782 | 611 | |
| | 5か年平均 | | 62,754 | 538 | |
| | 2022年見通し | | 51,000 | 608 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年より減少か。中旬までは潤沢に玉咲きアジサイ中心に入荷が多いと思われる。近年は品種数も多くなり多品種での入荷が予想されるが、花持ちの良いマジカルシリーズの入荷は多い見込み。今年は紫陽花まつりなどの需要もあると思われる、7号以上の大きいサイズも入荷が増える見込みである。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（64.5%）、2位群馬（10.9%）、3位埼玉（9.1%）となっている。</p> | | | | |
| ス パ テ ィ フ ィ ラ ム | 実 績 | 2017年 | 12,557 | 291 | |
| | | 2018年 | 8,058 | 340 | |
| | | 2019年 | 10,713 | 278 | |
| | | 2020年 | 11,712 | 306 | |
| | | 2021年 | 14,644 | 268 | |
| | 5か年平均 | | 11,537 | 292 | |
| | 2022年見通し | | 12,000 | 280 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年より減少か。前年同様に作付け量の減少が要因か。サイズは4号、6号が中心になる見込み。入荷量減少に伴い、注文の割合が増え、平均単価は上昇するのではないかと。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重（44.9%）、2位愛知（35.2%）、3位岐阜（16.2%）となっている。</p> | | | | |
| ド ラ セ ナ 類 | 実 績 | 2017年 | 29,746 | 655 | |
| | | 2018年 | 21,231 | 734 | |
| | | 2019年 | 20,206 | 760 | |
| | | 2020年 | 24,881 | 888 | |
| | | 2021年 | 22,752 | 948 | |
| | 5か年平均 | | 23,763 | 792 | |
| | 2022年見通し | | 21,000 | 952 | |
| 概要 | <p>入荷量は前年より減少か。植物原価と輸送費が大きく高騰し、輸入関連商品が慢性的な品薄になっている。すでに販売価格の見直しが出てきているが、さらに値上げになりそう。小鉢から大鉢まで品薄状況が続く見込み。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（57.9%）、2位沖縄（10.0%）、3位三重（7.8%）となっている。</p> | | | | |



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.588
2022年6月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434